

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	66	学校名	茨城県立竹園高等学校				課程	全日制			学校長名				櫻井 良種			
副校長名	細矢 英三				教頭名			三渚 義弘			事務室長名				吉田 孝則			
教職員数	教諭	55	養護教諭	2	常勤講師	1	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	4	ALT	3	計	75
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計		合 計		ク ラ ス 数	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通、国際 科		160	160									160	160	8			
	普通 科				134	101	120	110			254	211	12					
	国際 科				43	40	33	46			76	86	4					

2 目指す学校像

未来においてよりよい社会のつくり手の育成を図るため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。 ○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図ることができる資質能力が育つ学校。 ○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重し合意形成を図ることができる資質能力が育つ学校。 ○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間が育つ学校。
--

3 三つの方針（スクールポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図ることができる資質能力の育成 ・複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら合意形成を図ることができる資質能力の育成 ・自国の文化歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・県内の学習支援、進学支援を牽引するリーダー校として、学力向上の推進、難関大学及び医学部志望者への進路実現 ・国際科においては特に「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のバランスが取れた育成を図る
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・様々な分野に対して興味を持ち、探究心旺盛で、積極性・主体性に富む生徒 ・国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語及び異文化理解に努める生徒 ・自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習支援	ICTを積極的に活用し、授業の質を向上させるとともに、「授業第一」をモットーに、生徒が主体的に学習に取り組む環境を整える。素直で誠実な生徒が多く、高度な学びに対する潜在能力を感じる。	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法を工夫し、授業を通じて生徒が学問に対する関心を深め、将来の進路選択に向けて広い視野を養えるよう努める。 ・高度な探究活動や視野の拡大につながるよう、授業研究をさらに推進する。 ・探究活動を一層充実させ、各教科での学びをより深めるための指導法を模索する。
進学支援	難関国公立大学への進学希望者が増加しているため、より効果的な情報提供と面接指導を重視した、個別対応の進学指導体制を強化する。今年度の国公立大学現役合格者は198名(東大6名、京大1名、東北17名、筑波大52名など)だった。生徒一人一人の希望を実現するため、更なる進路指導の充実が必要である。	・学年間の進路指導にばらつきが見られたため、昨年度作成した進路マップを基に、一貫性のある進学指導体制を構築する。また、進路実現の鍵を握る初期指導プログラムの構築を図る。 ・面談を密に行い、進路相談を充実させ、各生徒の進路希望を把握し、目標に向かって粘り強く取り組む姿勢を育成する。 ・東京大学、京都大学、難関10大学や医学部医学科など、非常に高い目標を設定し、生徒がその目標に到達できる学力を育成する。 ・年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)の指導体制をさらに強化する。
生徒支援	多くの生徒は高い規範意識を持ち、問題行動はほとんどないが、学校生活に不安を抱える生徒も多く、きめ細かな支援を継続的に行う必要がある。	・生徒が自らの生活習慣や規律を確立し、健康的でバランスの取れた学校生活を送れるよう支援する。 ・あいさつや交通マナーなど、よりよい学校づくりに向けた生徒の主体的、自発的な活動を支援する。
特別活動	生徒会や実行委員会により、学校行事の企画・運営が生徒主体で行われている。	部活動の加入率も高く、生徒が自己表現を通じて自己肯定感や自己有用感を高めることができるよう支援する。
働き方改革	教職員は一人一人が誇りを持ち、充実感を感じながら教育活動に取り組んでいる。業務の効率化を図り、行事の精選を行っているが、全体的に多忙感は否めない。	・教員が専門的スキルを高めるため、また生徒と向き合う時間を確保するために、さらなる業務見直しを行い、超過勤務時間の削減を目指す。 ・学年や校務分掌、教科等の枠を超えた協働体制を強化する。
事務室	予算の効率的な執行を行い、校内環境の整備を進めている。	・事業の優先順位を踏まえ、経費削減を目指しつつ、計画的な執行に努める。 ・施設設備の安全面の維持や、植栽などの環境整備を実施する。

5 中期的目標

本校教育の核である活力ある学びの場をつくり、特色ある学校づくりを目指す。

- 1 充実した授業と信頼関係に基づく丁寧な支援により、生徒の高い次元での進路希望の実現を図る。
- 2 自ら学ぶ姿勢(信念・気概・自学自習の精神)、考える力や主体性を持つ自己教育力のある生徒の育成を図る。
- 3 学業面に加え、教科外活動やボランティア活動にも力を入れ、「知徳体」が優れた人格形成を図る。
- 4 教職員一人一人が、適切な量の業務を行い、自身の健康および福祉の確保をし、教育活動の水準の維持向上を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学習支援－基礎学力の定着と高い学力（発展的応用力）の育成－	(1) アカデミックな授業－竹高生の「凄さ」(ポテンシャル) が「輝く」授業づくり－ ・「授業第一主義」の理念のもと、日々の授業のなかで生徒、教員がともに真摯に学びあう姿勢を追求し、基礎学力の定着と高い学力の育成を目指すとともに、主体的に考えて行動できる生徒が育つ場を実現する。① ・「質の高い授業」を行うことで、授業を通じて生徒が学問に対する興味と関心を高め、将来の進路選択に向けて広い視野と幅を広げられるようにする。 ・生徒の授業満足度を高める（生徒アンケートで授業満足度の平均3.4以上【KPI】）。 (2) 教員個々の授業力と教科としての授業力の向上 ・現在求められる資質能力の育成を目指した「質の高い授業」を実現するために授業力向上を推進する。② ・相互授業見学、生徒による授業評価、教科マネジメントの確立、教科内の教材の共有や考查問題の検討、各種研究会や予備校が行う教科指導法の研修への積極的な参加を通じて、教科指導力を向上させる。 ・ICT機器、AIやアプリの活用など、一人1台端末を利用した指導方法や教材の活用、評価方法の改善など、教育改革の動きに積極的に対応した授業改善を進める。 (3) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成と基礎学力の定着 ・生徒の自学自習態度の育成ための支援を行う。 ・生徒一人一人の学習時間の把握や学力の分析を通じて、個に応じた支援を適切に行う。 ・「指導と評価の一体化」を推進する。観点別評価を含む評価方法を工夫して、生徒の学習意欲の喚起につなげるとともに個に応じた支援を行う。 (4) 高い学力（発展的応用力）の育成 ・生徒の知的好奇心を刺激し、主体的で深い学びへと導く魅力ある授業や取り組みを実践する。 ・大学入試問題の研究や分析を行い、目標レベルを明確にした授業や課外、質の高い問題による考查を実施する。 (5) 探Q、クロス・カリキュラム、文理横断型授業、ACEプログラムなどの推進 ・生徒が深い思考力や判断力、表現力を身につけ、さらに高度な探究や視野の拡大につながる授業や学習活動と位置づけ積極的に推進する。 ・探Qでは、全校で組織的に円滑に行う体制を構築し、生徒の探究活動を支援する。 ・図書館の積極的な活用を維持する。 ・クロス・カリキュラムや文理横断型の授業を行うことで、大学が求める資質・能力を身につける基盤とする。 ・ACEプログラムを充実させ英語によるコミュニケーション能力の育成と向上を図る。
2 進路支援－生徒・保護者の進路希望の実現、地域社会の期待に応える－	・3年間の系統的組織的な進路支援体制を構築する。進路支援の計画を明確にし、学習支援にリンクした進路マップを作成して生徒・保護者に主体的な進路決定を促す。特に、早期に学習習慣が身に付くよう支援する。③ ・年内入試（総合型選抜、学校推薦型選抜）の増加、理工系における女子枠の増加など、多様な入試制度に対応した進路支援体制を確立する。④ ・生徒の自己実現、「高い志」をもって進路目標が設定できるためのキャリア教育の充実を図る。 ・保護者対象の進路説明会や講演会を実施して、本校の進路支援に対する保護者の理解と協力を得る。 ・チャレンジ・プロジェクトの取組で実施する東京大学探Qツアー、東北大学見学ツアーなどの大学見学、オープンキャンパスや大学が個別に実施している様々な企画や講演会などへの積極的な参加、本校で実施する進路講演会、模擬授業などを充実させることで、大学教育内容や特色、仕事の魅力や意義を理解させる。

別紙様式 1 (高)

	・学年との連携を図り、進路相談機能を充実させる。 ・蓄積されてきた進路データの分析とその共有を通して、進路支援のノウハウの共通理解を図る。 ・生徒・保護者に進路情報を適切に提供する。 ・夏季休業期間中などの課外のあり方を検討し、生徒の進路実現に資する内容で実施する。 ・模試の結果を分析し、全教員で生徒の正確な学力を把握し、授業改善に活かす ・『進路要覧』を活用した進路学習など、生徒の進路意識を向上させるとともに、過去の進路データを生徒・保護者に示して進路決定の一助とさせる。 ・学習館の積極的活用を維持する。
3 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	(1) 生活規律の向上と自己管理能力の育成 ・保護者・家庭との連携・協力のもと、生徒が自ら基本的な生活習慣や生活規律を確立するよう支援する。 ・あらゆる機会を通じて、挨拶の励行、自己規律、公共心、規範意識を育てる。 ・登下校時の安全確保と交通マナーの向上を図る。 ・公共ルールへの遵守、スマートフォンやSNS等の適切な利用を促す。 (2) 安全・安心な学校生活の実現 ・すべての生徒の命・人権を第一に考え、生徒が安心して学校生活を送ることができるように努める。⑤ ・移動教室等の時は、盗難防止や不審者の侵入防止を目的に施錠を徹底するとともに、生徒への注意喚起を常時行うことで学校事故の発生を防止する。 ・盗難事件等、学校事故が発生した場合は、管理職、生徒支援部、学年主任、担任の 連携と情報共有を徹底し、迅速な対応を行う。 ・「18 歳で成人となる」ことを自覚させ、あらゆる機会を通じて非違行為は絶対に許さない姿勢を生徒に示す。 ・いじめは絶対に許さない姿勢を生徒に示し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。 ・交通安全教室、薬物乱用防止教室等を通じて、保護者・家庭の協力を得ながら生徒の安全確保に努める。 ・生徒の自主的な活動を充実させ、生徒の自主性を伸張させる。 (3) 学校行事・部活動などの課外活動・学校外活動 ・学校行事の企画運営を、より一層生徒主体で行い、成功体験を積み上げ、失敗も学びにつなげながら、生徒に安全安心な活動環境を提供するべく細心の注意を払う。⑥ ・部活動などの課外活動に積極的に参加する生徒が多いことから、積極的に活力ある充実した学校生活を実現するよう支援する。 ・生徒たちに下校時間の遵守など責任ある活動を実現させる。家庭学習の確保など、引き続き、学習と部活動などの課外活動の両立をスマートに実現するよう支援する。 ・部活動指導方針の遵守、体罰絶対禁止など、充実した部活動を推進する。 ・各種コンクール、コンテストや課外での行事、地域社会での行事やボランティア活動等に積極的な参加を促していく。 (4) 快適な教育環境の維持、学校保健の共通理解と協力体制、教育相談の充実 ・快適な教育環境の維持のため生徒による主体的な活動を促し、校内美化や衛生環境の向上を図る。 ・生徒の心身の健康の維持や安全の実現のため、全教職員が学校保健に関する共通理解を深める。保健室との連携、保健厚生部や教育相談部との連携と協力体制を大切に、迅速かつ機動的に対応する。 ・生徒・保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう情報の共有を図る。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を充実させ、生徒支援を実現する。 ・特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーとの連携を密にして、心身の健康に不安を持つ生徒・保護者に対する相談支援体制、個別の支援計画を必要とする生徒への支援を充実させる。

別紙様式 1 (高)

	・「生徒一人一人を大切に人権が尊重された教育活動」を基盤におき、すべての教育活動において「自分を大切にし、他者を大切にし、多様性を認め、そのなかで自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。
4 PTA、同窓会、地域社会との連携	・ <u>PTAとの連携を深め良好な協力関係を構築することを通じて、保護者・家庭の学校での教育活動に対する理解と協力を得るよう努める。⑦</u> ・同窓会は教育環境の整備や生徒への支援活動（関東大会やインターハイに出場する生徒に激励金を贈呈等）に尽力していただいている。引き続き良好な関係を維持し、学校の教育活動の充実を図る。 ・高大連携（探Qでの筑波大学との連携）、中高連携（竹園東中学校等との相互授業参観）を強化する。竹園東小学校、竹園西小学校への外国語授業参観などを継続して実施し、竹園高校への理解を深めてもらう。
5 募集・広報活動—情報発信の充実と開かれた学校づくりの推進—	・ <u>本校を取り巻く教育環境の変化に積極果敢に対応して、生徒の成長した姿が見える広報活動を実践する。⑧</u> ・学校WEBページやオンラインコンテンツを充実させ、教育活動の様子や「頑張る竹高生」の姿を発信する。 ・学校説明会や学校公開を充実させ、本校の授業や部活動への中学生の理解促進を図り、本校の魅力をPRして志願者の一層の確保を図る。 ・本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、「竹園高校で学びたい」という意欲旺盛な志願者の獲得を目指す。
6 学校運営・組織体制—職場環境のさらなる改善、働き方改革、事務室との連携—	・運営委員会で議題の整理を徹底し、職員会議の時間短縮を進める。 ・ICT機器の活用による校務の効率化、ペーパーレス化の促進を行う。 ・ <u>業務内容に関する教職員からの提案を積極的に取り上げ、働きがいのある職場づくりを推進する。⑨</u> ・学年、校務分掌、教科等の枠を越えた全職員の協働体制で仕事にあたる。 ・事務室との連携を大切にして、予算の適切な執行をはじめとする様々な業務を正確に進める。
7 コンプライアンスの遵守	・ <u>厳正な規律と高い倫理感を持って職務に精励することで、生徒・保護者・地域社会から信頼されるよう努める。⑩</u> ・教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、厳正な規律をもって服務規律を遵守して職務に取り組む。 ・教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、厳正な規律をもって服務規律を遵守して職務に取り組むとともに、自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じ、教員自らが成長できる職場環境の実現を目指す。 ・言動に注意すること、ミスのない仕事を意識し徹底することで、生徒・保護者の学校に対する信頼を失わないようにする。